

第2回九戸村立小・中学校建設用地検討委員会会議録

令和7年9月22日 午前10時00分から
九戸村役場3階 第2会議室

出席者

佐久大学人間福祉学部人間福祉学科 教授	狩 野 徹
九戸小学校PTA会長	吉 田 一 幸
九戸村保育施設保護者会連合会長	七 戸 宏 大
九戸村商工会 副会長	下斗米 光 昭
九戸村民生委員児童委員協議会 会長	山 口 忠 一
九戸村体育協会 副会長	中 野 剛
九戸村文化協会 会長	上 村 勝 己
戸田地区公募委員	小 沼 祐 子
伊保内地区公募委員	川 畑 友 和
江刺家地区公募委員	松 本 稔

欠席者

九戸中学校PTA会長	小野寺 多 市
------------	---------

事務局

副村長	岩 崎 一 弘
教育長	高 橋 良 一
主幹	関 端 祐 介
村づくり推進課長	川 原 憲 彦
課長補佐	觸 澤 英 之
主事	觸 澤 雪 莉

【開会】

事務局（村づくり推進課長）

はい。それでは、定刻となりましたので、ただいまから第2回九戸村立小・中学校建設用地検討委員会を始めさせていただきます。初めに委員長より挨拶を申し上げます。

【委員長あいさつ】

狩野委員長

おはようございます。委員長を務めさせていただきます、狩野です。1回目は委員の方々のフリー発言や、お考えを1回伺いました。今回は具体的な敷地の候補等について絞っていただければいいと思っています。年内12月20日までに答申、答えを出さなければいけません。学校の中身を議論するというよりかは敷地をどうするか、それが決まって建設規模についてはまた別のところでの検討ということになるかと思います。1つ1つ解決していけないという部分あると思いますので、まず、この委員会の方は、敷地をどうするかそのあたりを中心に、今日も議論させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【建設用地候補地の抽出について】

事務局（村づくり推進課長）

それでは、ここから協議になりますので、委員長より進行をお願いいたします。

狩野委員長

今日の協議の項目番号1、協議事項の建設用地候補地の抽出ということになります。事務局と相談し、あまりたくさんあっても難しいということで、いくつか絞って方向性を決められればいいと思います。

候補に出てきたところについては、メリット・デメリットとか、問題、魅力を具体的に検討し、最終的には決められればいいと思っています。今日はいろんなご意見をいただきながら、このあたりでどうでしょうかという話にしていければいいと思っています。

今日の資料は事務局で用意していただいたのが、普代村資料で「義務教育学校の建設決まる」という広報誌の記事と、敷地を検討するための村の地図、それと今日もう1つの3点になりますがよろしいでしょうか。はじめに説明を事務局お願いしてもいいですか。

事務局（村づくり推進課長）

それでは資料の説明をさせていただきます。初めに資料の2-1をご覧ください。地図の方ですが学校位置図ということで廃校になりました5校も含めて、伊保内高校、九戸中学校を記載しております。中央に赤い丸をつけておりませんが、この丸につきましては、江刺家あるいは戸田方面から来る距離の中心ということで、現在、九戸小学校でスクールバスを使っておりますけれども、江刺家から来た場合、そして、戸田から来た場合に30分程度の距離を

目途として、円をつけたものでございます。文科省では通学時間は、バス通学の場合は概ね1時間ということになっておりますが、低学年等も含めると1時間乗車するのは厳しいということで、30分程度が理想と考えた場合に、大体この位置関係になるということになります。

資料ナンバー2-2でございます。普代村の学校建設に係る広報を抜粋したものでございます。現在は、令和9年度に義務教育学校を開校する計画が進んでおります。なお、この資料の標記の最後に「本校舎本体32億」との記載もございます。2年前でこの金額ということで、今だとさらに、建設費は上がっているものと推測されます。左下の図面をご覧ください。学校は配置図でございまして、実際の普代村につきましても、各1クラスです。中学校まで含めると9クラスの学校ということで、このような配置にしておき、面積的にはこれで一町五反という面積でございまして、

ただ、この図面の中には野球場はありませんが、学校敷地の隣に、自治体の野球場が設置されているという状態でございます。

目安的に第1回の委員会で一町四反という話がありましたが、駐車場あるいはその中学校も一緒に施設を整備するとなると、野球場など、その辺を含めた面積が必要ということで考えていただきたいと思います。事務局からは以上です。

狩野委員長

はい。ありがとうございます。まず、地図を見ていただくと村としてはこのあたりが適切、この円の中あたりで検討できればいいということですね。

事務局（村づくり推進課長）

これまでの流れの中でも前回もお話にございました、九戸中学校、あるいは伊保内町裏のところが面積を確保できます。あとは、地形的にいくと荒谷地区の消防署付近の土地、あるいは長興寺方面に向かう直線付近も面積からいくと候補地にはできると思います。

狩野委員長

はい、今説明があった資料についての質問があれば、いかがでしょうか

普代村の規模で32億かかっている。実際それよりも1クラス多い計画（九戸村）ですが、規模的には似たようなものであると。予算額については、いろいろ決まっているわけではなくて、30億から40億ぐらいの部分はかかりそうだと。この辺も含めて、まず、今日、最初の資料について何かご質問いかがでしょうか。ご意見構いません。

委員（吉田）

ちなみにこの普代村のやつは、土地取得込みじゃなくてもう土地があった状態での建設費だけですか。

事務局（教育委員会 主幹）

ここは昔、多目的グラウンドというものがあつたところのようなので土地取得費は必要ないようです。

委員（吉田）

了解です。ありがとうございます。

狩野委員長

はい、ありがとうございました。あといかがでしょうか。はい、お願いします。

委員（上村）

今想定されるのは、この 32 億のうち、国庫や県費はどのくらいつくのか。

事務局（村づくり推進課長）

実際、国庫は義務教育学校の場合には 2 分の 1 補助になります。しかし、実際にかかった建設単価の 2 分の 1 ではなくて、1 平米あたりの上限が決まっています。実際の価格と比較すると 3 分の 1 程度になると見込まれます。残った部分については、過疎債であったり、学校施設整備事業債であったりを組み合わせた形で資金調達することになります。

狩野委員長

予算のこともかなり考えていかないと厳しいというのもあるかと思います。

委員（川畑）

それはここで検討するものではないですね。

狩野委員長

検討するものではないですが、ただ、予算規模として、極端に言えば 50 億、60 億円になるようなものは避けておかないといけないのだと。予算規模について、このぐらいはなんとかなると考えてよろしいですか。

事務局（村づくり推進課長）

予算については厳しいなと思います。建物だけの値段ですので、それから備品等も含めると相当な額になります。ただいまある学校で使えるもの等もありますので、若干圧縮できると思いますけれども、実質的にはこれを超える金額ではないかと思います。建設については、鉄筋コンクリートが主だと思いますが、そこを木造に変えるなり、その辺については、場所

を決めていただければ建て方については、改めて、教育委員会でコストをかけない方法とか、補助金等を見つけながら対応していくということで圧縮は図りたいと思います。

狩野委員長

土地を取得することは考えていないのか、また、そういう予算は厳しい、ある一定の民有地を取得するのではなくて、廃校等を利用するとか、それもあまり気にしなくて、検討していいものなのかどうか。

事務局（村づくり推進課長）

ある土地を使えば1番良いのですが、それが教育環境的にいいかという問題も含めまして、意見をいただきたいということでございます。お金の話をすれば、財政上はいくらでも安く済ませればよいということになりますけれども、ただ、教育環境整えるということはそれだけではないということもありますので、それぞれ意見をいただきたいと思います。

狩野委員長

まず、費用は考えないで候補を挙げて、その中で絞っていけばいいと思います。最初から1つに絞るということではなく、いくつか挙げてみて、それぞれメリット或いはコストがかかるとか、検討していけばいいかと思います。

この資料についての確認はよろしいでしょうか。もう1つ資料が出ていますけど、これの説明をお願いします。

委員（下斗米）

私の方で説明させていただきます。前回、いろいろお話をさせていただいて、ただ、皆さんの中では、私の言っていることのイメージがわからないとか、何か理解できないこともあるだろうと思ひまして 資料を準備してきました。また、事務局からアンケートを皆さんに配布させていただいて、一通り目を通してきたのですが、その中で言っているのは、やはり、中心である伊保内地区にというふうな声が多く、九戸中周辺との声は見当たらなかったと思います。前回の資料の中で、つまりそういったような内部ミーティングとか、アンケート結果に基づいて、現在第2案、つまり、統合をしてそのあと継続的に小中一貫なり、義務教育学校の再編を考えるということなのですが。それで、前回の資料の10ページの中で、小中一貫校または義務教育学校の校舎設置場所については、将来の村づくりの観点から、教育委員会とは別に用地検討委員会といった組織を構成し幅広い視点で決定するというような、それを踏まえて、今回のこの委員会があると思っています。私の方で、前回の発言を踏まえて資料を準備したものが皆さんに配布されているものです。説明をさせていただきたいと思います。まず、1ページ目ですけれども、これは平成27年に出された、文科省の方

から出された指針手引きです。それから、私が抜粋したものを少しだけ、ここに載せてみました。最初の方に、「長時間バスに乗った状態から学校での活動に入るために、心身の状態を円滑に切り換えする観点から、学校に到着した後、軽い運動を行う時間を設けている学校もある」という文言がありました。これは、スクールバスが学校敷地まで乗り込む必要はないのだろうなということが想定されます。バスを降りてから歩かせるということも必要なのだろうなということが考えられます。現に、二戸市の浄法寺小学校で、役場敷地でスクールバスを降りて、そこから学校まで歩かせるという取り組みをしている学校があります。それから、通学距離とかについてですけども、これは前回の資料の中で説明があったので、説明は省略いたします。そしてその下に、こうした中であってところからなのですけども、「地域とともにある学校づくりが求められていることを踏まえれば、学校統合の適否を検討する上では、学校教育の直接の受益者である児童生徒の保護者や、将来の受益者である就学前の子供の保護者の声を重視しつつ、地域住民や地域の学校支援組織と教育上の課題やまちづくりも含めた将来ビジョンを共有し、十分な理解を得ながら進めていくことが大切になる」ということが書いてあります。その下の方に、統合を行う場合の検討体制に基づくことですが、地域コミュニティの核としての性格を有する小中学校の統合の適否の判断は、行政が一方的に進めるものではなく、関係者の理解と協力を得て行わなければならない。そのためには、保護者や地域住民と認識や課題認識、将来ビジョンを共有するプロセスが重要となりますというようなことが書かれています。そういったことを踏まえて、私が考えていることを説明しますが、次のページなのですけども、これは、九戸小学校を中心にして、ピンクが4km、先ほど説明ありましたが4kmの線とそれから黄色の2kmの線を引きました。通学距離については4kmということですけども、4kmといいましても徒歩としては、現実的ではないので、例えば2kmぐらいでちょっと地図の丸を描いておりました。そうすると、現在の九戸小学校を中心にして2kmの円を描いた場合には、長興寺のお寺さんのあたりからですね、山根分あたりまでがそのぐらいであります。そうすると、大体、徒歩でも30分で行けるような場所で、伊保内地区についてはスクールバスを利用することなく、直接、徒歩で学校に通うというふうな範囲になってくるかと思います。それから次のページですけども、資料3、これは九戸中学校を中心に円を描いたものになります。黄色の丸が2kmの範囲、ピンクの丸は4kmですけども、4kmだと江刺家の一部、それから戸田の方です。黄色の丸を見ますと、大体九戸中学校を中心として2km見ると、伊保内では、上町の岩銀のあたりから、戸田であれば戸田保育園までということですから、多分、そこに学校となると、伊保内下町からはスクールバスになるのかなと思います。

次の資料4です。これは次のページにも出てくるのですけども、学校がどういった学校配置をちょっと考えているかです。これは小学校6クラス、中学校3クラスの想定で、ただ体育館は2ヶ所設けていますけども、こういった感じで、100mの直線と200mのトラックを準備したときに、候補地としてみれば23,000㎡ぐらいということです。それからもう1つの26,188㎡、これをGoogleに重ねてみたときが次のページになります。左の下の方に見

えているのが、現在の九戸小学校、赤い屋根が体育館です。町裏に民家が建っていない水田がありますが、第一案と第二案をこれに示したのが、この図面です。それから、1つ手前ですが、これは今月になってドローンを飛ばしてみたものですが、九戸小学校の周辺は、国道340からバスが入れるように道を広くした所があります。場所的に私が想定している場所がその町裏の方になります。この黄色い線の部分が23,000㎡、そのほかにも土地がありますから、その辺を利用すれば、いろんな施設を完備することも可能かなと思います。スクールバス的には、本来は別に役場とか、そういったところから降りて歩くといいかなとは思っているのですが、現在の小学校にはすでにスクールバスの乗車場所がつくってありますので、そこから体育館と現在の校舎の間に道を通してあげると、そこを歩いていく、ことも可能であると。当面のところは現在の道を利用しただけで、一部道路を広げなければならない部分もあるかもしれませんが、そういったことを想定しています。それから最後の部分になりますけれども、これは九戸の商工会でまちづくりの計画をしたもので、緑で着色する部分が、私の考えている小学校の予定地、それらを含めて、旧伊保内小学校からこの裏にかけての部分を公共施設ゾーンとして考えて、その中に、例えば幼稚園であるとか、図書館であるとか、コミュニティ施設であるとか、そういったものを作るエリアにしたかどうかということです。

そして、北側に、グループホームとかのあたりですが、こういった場所が1つの住宅ゾーンとすると、福祉的な折爪荘もありますからこういったゾーンではどうか。

それから、図面の右側には、例えば上町とかそういった部分にも住宅ゾーンを、現在の国道340号線沿いの町の中は商業ゾーンとしてはどうか。

一番下の方に赤で点線を入れているのが、将来的な伊保内バイパスとそれを結ぶ路線。

現在の瀬月内川というのが、川幅も狭く、周辺はハザードマップでは浸水区域になっております。国道340号自体も狭い道で改良が必要ですが、広げることは不可能だということで、河川改修も含めた道路とか、こういったものを建設すると。

ただこういうものを計画したとしても、多分20年先とかそういうものになるでしょうから、今、線状降水帯みたいなのが発生した場合に川が増水して施設が浸水する可能性はかなりあります。そこで、今の学校予定地の中で避難所、避難道路的な横断道、そういったものをつくれば、これは学校とは別ですけれども、そうすれば、町裏が賑わう。現在は農協のところから裏に抜ける道が一本だけですので、そういったもの、あるいは旧伊保内小学校の敷地から裏に行く道路を一本作っておけば避難道路的な役目、あるいは、その場所が避難所的な役割になるかもしれない。これが商工会で考えている伊保内地区のまちづくりになります。

狩野委員長

はい。ありがとうございます。かなり具体的なところでの実際に検討していただいた資料です。この資料についての質問等ありましたら、お願いしたいと思います。はい、お願い

します。

委員（中野）

この建設予定は現九戸小学校の後ろの水田を使うということですね。

委員（下斗米）

はい、そうです。

委員（中野）

これは、今すぐを買収することが可能なのですか。それはすぐにできるものですか。私はそれに時間がかかるのであれば、やはり、現時点で所有している、岩手県でも一、二を争うぐらいの敷地を持った中学校に、に建てた方がいいと思います。用地取得にお金を掛けるぐらいだったら、もっと校舎に、村からの持ち出しがあっても、子供たちのことを考えた校舎の建て方、野球場等の施設を作ったりするための敷地をしっかりと確保していった方がいいと思います。

狩野委員長

はい、ありがとうございます。今日、提案していただいたことは、今日で決める予定はないので、今の場合、用地買収が進み、ちょっと私が理解していない部分もあるのですが、費用がかかるとか、そういうものをこの後整理していけばいいと思います。まずこれはこれで1つの候補地の案という形で、提案もありましたので、これはこれで考えていったほうがいいのかと思います。

いろんな条件がいっぱいまたこの後出てくるとは思いますけど、最終的に1つに絞ればいいのですが、例えば、A案、B案みたいな形で答申を出してその後行政で決めてもらう。補助金等の関係も出てくるかもしれませんが、まず、こういうものに対して1つ1つ、条件に対してこういう課題がある、こういうメリットがあるみたいなものを整理していけばいいと思います。もう一度確認で、土地の候補としてもう決まっているものがいくつかあるわけではなくて、今ゼロベースでやって、ただ、いくつかの条件で、今、廃校になった敷地を使うのも1つだし、微妙に円が違う部分ですけども、考え方としては、歩いてでも、トータルとして30分ぐらいで通学できる範囲という円が出てきていると。そのあたり共通だと思いますけど、1つ1つの敷地になると、いろんな意見が出てくるのですね。それでまず、これはこれも1つの案という形で提案されています。事務局の方で、こことここみたいなものはあるのかないのか、この中でいうと単純に学校の敷地だと円の中であればもう限られているのですが、まずそうやって委員の方からいろいろ意見いただければいいかなと思います。

事務局（村づくり推進課長）

事務局案としてはどこというのはいないです。ただ、過去の経緯も踏まえると、今の九戸中学校の敷地とありますが、用地的に面積がたくさんあるところですので候補の1つだと思います。また、下斗米委員からお話がありました伊保内町裏についてもやっぱり面積はあるということで用地の候補にはなると思います。今の状態、要するに農地であれば、それを潰すことになりますので、その辺も踏まえた上で選定はしなければならないと考えております。

狩野委員長

今日、何度も言いますが、12月まで少し時間がありますので、決定はもう少し後でいろいろな意見を言っていただいて、それぞれ3つなり4つなり、いずれは1つに絞られる。1つはなかなか難しいと思いますので、2つから3つぐらいに、ABCがあつて、○×があつて、もしできれば優先順位をつけられればいいかと思います。まず、しばらくはどっか1つに固定しなくてもいろいろな意見いただいたほうがいいと思います。それで、1個出るとこれに対して、賛否がいっぱい出てきますけれども、それはそれで検討することとして、他にこの地区がいいとの意見があれば、今日は言うていただくといいと思います。私が前回の経緯はあまり詳しく正しく理解しておりませんので、多分、何ヶ所かに絞っていたと思うのですが、それはそれで置いて、今回は、社会状況、情勢も変わっておりますし、それを参考にしていただくのは構いませんけども、ゼロベースみたいな形でいろいろと意見をいただければいいかなと思います。はい、お願いします。

委員（上村）

用地を検討するにあたって、私の考えですが、農業立村を掲げる九戸村ですので、農地を先んじて潰すというのは反対です。農業でも水稻の話もさまざま出てきているので、町裏は水田ですから、そういう振興も考えていかなければならないということで、繰り返しますが、農地をつぶすのは、考えから外したほうがいいということです。

それと、前回の会議で地域コミュニティとセットで学校建築もいろいろ考えたほうがいいというはなしですが、学校と地域コミュニティを、これは必要だと思うのですが、今の小学校中学校の置かれた立場、まさに1年に10人も生まれないような時代なので、これは一刻の小学校、中学校の環境整備には猶予がないと思います。いくらかでも早い時期に、子供たちに、この間、私は東京にいてもどこにいても同じ教育を受けられるような設備施設を、今生きる私たちが提供するのが責任だろうという話を言っていたのですが、そういう形で考えていった方がいいと考えています。

狩野委員長

そうですね、何度も言うのですが、意見は自由に言っていただいて構いません。1つに絞

ることはあまりせず、当面考えて、今言ったように、こういう視点だとこれが出てくる、こういう視点だと、こういう部分の問題があるのではないか、そういうのをどんどん出していけばいいと思っています。ここはそういう意味での意見を言える場として仕分けをやっていかないと、さっき資料にあったように地域で検討、行政的にではなく話し合って決めましょうというところもありましたし、自由にどんどん言っていただいていいのだと思います。

委員（松本）

江刺家地区ですが、今スクールバスで子供たちが帰ってきているのですが、帰りが45分から50分くらいバスがかかっています。私のところでそのぐらいなので、丸木橋まで行くと、多分50分とか1時間近くかかるのではないかなと思うので、現状より遠くなると、子供たちが家に帰るまで1時間超かってくるので、できれば、今の場所からあまり遠ざけないで欲しいと個人的な意見です。

狩野委員長

はい、お願いします。

委員（中野）

その話は、スクールバスが全体を回るからという話ですね。

委員（松本）

そうです。

委員（中野）

これも全部を回らないような考え方に持っていくようにすれば、スクールバスを増やすとか、そういうことを考えてもらえるようにすれば、その時間を短縮できるということですね。

委員（松本）

それをお願いしたのですが、現時点でそれができないのです。

委員（中野）

それをこれからお願いして、時間がかかるのはやはりだめだと思います。

P T Aとか、その地域の人達でスクールバスをもっと増やすよう要望等し、時間を少しでも短くして、早く帰るというのができるように持っていかなければならないと思います。

狩野委員長

そういう意見をとにかくどんどん出しましょう。

委員（中野）

この前1回目集まったときに上村さんが将来を担う子供たちということを言っていたと思うのですが、そこが一番大事なのだと思います。

だからこそ、子供たちには新しいところを提供してあげて、こういうところを卒業したと思ってもらえるよう、そのような感じを持たせて卒業させてやるのが、大人の仕事だと私は思います。

今までも1回目の統合がだめになったように、もう何年も時間がかかっているものなのか。他の統合を見ていると、新しい学校が開校した記事を新聞とかテレビで見ている、何で九戸村だけ建てられないのかとすごく感じていました。もう時間はいっぱいかけており、早く整備してあげる方がいいので、1人でも多く、1年でもいいから、中学校の最後の年でもいいので、新しい学校に入って卒業させてあげるのが、僕らの役目なのではないでしょうか。

そのように持っていくために、この前、松本さんが言っていた、ある施設といいましたが、結局、そのある施設、一番年数が経ってないところが山根小学校ですが、山根小学校ということは、体育館にしても30年も経過しているので、これから直すとか維持していくのが今度は大変になってきます。

新しいところを早く建ててあげるというのが私は大事だと思います。以上です。

狩野委員長

ありがとうございます。とにかく早くというところの意見だと思います。とにかくいろんな価値観があっていいと思いますので、ぜひ、また全員の方が発言されるといいのかなと思っています。いかがでしょうか。はい、お願いします。

委員（吉田）

私も統合協議の初めの時から関わらせてもらっているのですけれども、端的に言えば、伊保内小学校のところか九戸中学校というのが現実だと思いますが、俺は中学校の方がいいと思っていました。

私のところは、もう下の息子も6年生でいなくなるし、正直、今回、私が委員に入るよりもっと先の人達、今から上がる人たちをいっぱいいた方がいいのではないかなと言ったのですけれども、いろいろな経験があるということで少しでも活かしてもらえたらいいと思ってきました。

さっき下斗米さんの言ったこれも前回出た案でありました。用地取得やそれにかかる期間とかで、取得した後も田んぼだから直すお金もかかることからこれはなくなって、結果、今の九戸中学校に建てることになって、「いいところができるな」と保護者達は話していたのですが残念ながら白紙にされました。

今の高2か高1あたりが入学するあたりが新校舎だったのですが、その子たちには「ごめんなさいねっ」と話したのですけれども、本当に子供たちが一番かわいそうなので、これ話すときにも、皆さんの経験も大事だと思うのですが、やはり子供をないがしろにしないような、子供たちのことを考えて、議論してもらえればいいなと思います。

単純な話で、どっちかってなったら、これ小学校の理事会でも言ったのですが、正直私もわからないので、「もし困ったらみんなにアンケート取るよ」とも話しています。もし必要だったら、それも可能なので、アンケートを取ることで良し悪しはあると思うのですが、そういうことも可能なので、できるだけこれからの人たちの意見を踏まえたような場所取得等が必要だと思います。

狩野委員長

はい、ありがとうございます。最終的に2つか3つか出てくると思うのですが、今言ったように、住民で決めるのであれば、この委員会で取るのではなく、行政でやってもらうかもしれませんし、ここでやるべきだということであれば、それはそれで検討することはできると思います。とにかく、今は考え、アイデアを出していきましょう。はい、お願いします。

委員（小沼）

先ほどの伊保内のまちづくり計画図ですが、この計画案は、商工会さんが計画されているものになるのか、もしくは村全体、役場の方が加わって、こういう計画案をされているのかどうかのでしょうか。

狩野委員長

これについてはどうでしょうか。

事務局（村づくり推進課長）

役場は関わってはいないです。

委員（小沼）

初めての話ということでしょうか。

事務局（村づくり推進課長）

初めてというわけではなくて、前回の統合協議のときも意見はいただいております。

狩野委員長

住民というか、有志の提案ですね。ここは1つの提案として考えていきます。それで、適

否に対して、あまりいい悪いは、これまた時間をとりますけども、今日は候補になりそうなところをいくつか出させていただきたいと思います。

委員（小沼）

ただ将来的に村で理想案を計画中であれば、それも考慮することにもなりますよね。

狩野委員長

いい悪いじゃなくて、こういう観点でこういうところもあるではないかなどどんどん挙げていただいた方がいいのかなと思います。いかがでしょうか。はい、お願いします。

委員（七戸）

今の中学校のところ以外に建てるってなったら、そのあとの中学校の敷地はなんか活用案とかそういうのは何かあるのですか。

事務局（村づくり推進課長）

今のところはないです。今の九戸小学校に統合したわけですが、実際、今の空き校舎になっている4校、長興寺については学童で使っていますけれども、それ以外については、戸田小は甘茶の選別等で使っている状態です。ただ、実質、今後どのように使うかについては、現時点では難しい状態です。規模が大きいことや、社会状況からも企業等の利用も難しい状況であり、今後管理していくのも、実質大変になるということです。

委員（七戸）

今ある学校の敷地を使って建てるが、一番現実的な気はするのですが、実際、江刺家もグラウンドとかも草がすごくて使えないような状態になっています。活用案とかもなく、それを解体するとなると費用もかかりますので、新たに土地を取得するよりは今ある学校の解体とかに費用をまわしたほうが、大分抑えられているような気がします。

狩野委員長

そうですね。私も建築をやっていますが、学校はすごく特殊な建物で、転用するのも意外と難しいのです。それは別の話ですけど。跡地をどうするかとか、それはまた別途、検討の組織が立ち上がるのではないかと思いますけど、今の敷地をしっかりと活かすことも1つの案だと思います。あといかがでしょうか。はい、お願いします。

委員（川畑）

小中一貫、義務教育、それをどちらにするか。一般質問を傍聴したときに、それが決まらない段階で、用地検討を始めるのかという質問に対して、もう11年に始めようということ

自体は決まっているので、同時進行でもいいのではないかと村長の答弁でした。先日の一般質問のときには用地検討委員会が始まっているのでその答申を受けてというような感じに変わっているのかなと思ったのですが、同時に並行で進めるのは構わないと思いますが、ただ、並行ではあるけど、小中一貫なのか義務教育学校なのか、それによって用地をどのようにしていくのか、一体なのか分離なのかも変わってくると思うので、並行ではいいけど、そっちが先行して、それに対してどういう用地が必要なのかということが出てくるのではないかと。また、何を基準に、何を最優先なのか、お金なのか、時間の決められたところに間に合うのが優先なのか、その辺がはっきり決まらないうと何が悪いも出しにくいと思います。

狩野委員長

おっしゃる通りだと、私もこれを依頼されて、引き受けるときに条件が決まっていないうのが結構あるなと感じました。

ただ、さっき言ったように最終的には、マルバツみたいに整理しておく、例えば予算関係であるとその丸のところの予算関係で順位が決まってくる。あと期間とかそういうものについてもおなじです。それを絞るのは11月ぐらいからできるかもしれませんが、今は意見を出していただいて、それと個人的には、一貫校でも義務教育でも大体の面積規模の数字が出てくれば、目安が立つとおもいます。細かいことは難しいのですけれども、要するに、1,000 必要なのか1,500 必要なのかって違ってきたら、かなり慎重にしないといけない、だけど、1,000 と50 ぐらいだったらあんまり気にしなくても、その議論はここではできないので、ただ付帯意見という形とか、こういうことを考えたら、これだけ必要だからこの敷地になるけれども、これを考えたら、少し幅広く、こちらの方法でやるのもあるかなど、もちろん途中で方向が決まったらどんどん言っていただきます。

ただ、この委員会は敷地の検討ということで権限が限られておりますので、この委員会からどちらかという点は難しいと思います。ただ、選択肢は2つしかないと思いますので、そこは意見としていえることはあると思います。

それも含めて検討していただいたらいいのではないかと、こちらの方でしっかりしたものがあって、提案すれば、どちらが上位ということはないのでしょうけれども、その意見はかなり先方として強くなるのではないかと考えています。

委員（川畑）

教育制度というか、小中一貫、義務教育にすることによって教員配置の数が変わるというのがありましたが、まずは、小学校が統合になって、その新しいものを建てるのが最優先事項なのか、その制度の小中一貫、義務教育に移行して教員の配置とかを、いろいろ充実させて、教育環境を整えるのが優先なのか、いずれ急ぎたいのはわかるけれども、これから何十年先を見たときに、今もう時間がないと慌てるのは果たしていいことなのかと思います。

狩野委員長

そうですね。ここは教育委員会の方も入ってらっしゃるので、すぐに答えは出ないかもしれませんが、考えを教えていただいて、もちろんまだ絞ってないと思いますけど、義務教育だとかいう課題があるとか、それを出していく、説明していただくといいのかなと思います。あくまでも、保護者、住民の意見と教員の意見と違うところにあるように、私、正確に把握しているわけではないのですけれども、こちらが理想だと思っても先生方にとって負担が増えるというのはなくはないみたいです。あくまでも、決定はできないのだけでも、ある程度の情報を教えていただいて、検討していきたいと思います。教育委員会で、今のこのことに関して、答えることのできる範囲で構わないのですが何かお話できることありますか。

事務局（教育委員会 主幹）

はい、小中一貫と義務教育、どちらに移行したときに面積がどれくらいという違いは今すぐには明確には伝えることができないのですが、できるかどうかも含めてちょっと次の会議までにはお答えしたいなと。できるのであれば、お示ししたいですし、それが1つの目安になれば。ただ、それで義務教育か小中一貫か決定することではないので、あくまでも、面積の目安にできるものかどうかを調べます。

狩野委員長

どっちにするのか決定するのは、別の組織だと思いますけれども、情報としてはできる限り提供していただくようにしたいと思います。あといかがでしょうか。

委員（川畑）

そのアンケートの資料を見ると、複式学級を解消してほしいというのが圧倒的に多くみられて、そういうことから統合して、それですべてよしではないでしょうけど、そこで急がなきゃいけないところは一段階クリアしたという印象では受け取っていました。

狩野委員長

そうですね。細かいこと、アンケートは多分前回の時点でのアンケートの結果です。また必要であれば、アンケートとは限りませんが、住民のヒアリングだとかいろんな手法があるかもしれません。アンケートはその時点での意見ということですね。参考にさせていただければと思います。あとはいかがでしょうか。

委員（山口）

先ほど委員さんからありましたけれども、それも1つの案として伺いました。また、先ほど消防署の裏の方といったけれども、このご時世、災害、水害がすごく多くなっている

ということもあります。九戸村は災害がない村と思っていますが、いつまでもないとは言いきれません。その辺を第1に考えて、災害に避難所としての一つになるだろうから、その辺も検討しながら、用地を決めてもらえればと思っています。また、用地に関しては、村でも予算がいくらでも使えるわけではないので、この検討委員会でここが一番いいと候補に出しても、村どう予算的に見てもらえるのか。一番いいのは予算がいくらつけられるか、そういうところがわかれば一番いいのだろうけれども、先ほど、普代村の学校の予算を見てその辺が限度かなという話ですが、それにプラスで用地買収をかけていいのかとかが、今の村の方向をお示しいただければと思います。

狩野委員長

そうですね、これももちろん細かいところまでは出せないのだと思いますが、事務局では大体事業費の枠、予算的な目安はありますか。普通、予算規模があって計画が多いような気がするのですが、幅で構いません。最大でもこのぐらいとか、今日すぐじゃなくてもいいですよ。

事務局（村づくり推進課長）

幅と言われると厳しいですけども、今の財政状況からいくと、極力抑えたい、いくらでも少なくというのが実際の立場です。ただ、安いだけで、問題があるのであれば別ですが、その敷地に建てることによってさらにプラスのメリットもあるのであれば、それはそれなりに尊重しなきゃならないということだと思います。ただ、先ほども申しましたが、廃止になった4校についても、実際管理は厳しい状態になってきています。それはお金の問題であったり、人の問題であったりということで、その辺も踏まえると、あまりたくさんの方取得は厳しい状況です。その辺は、いろんな観点からご意見をいただければと思います。

狩野委員長

金額的には決められないけど、今言った、当然費用は安い方がいいのですが、教育の質とか、そのために必要なものは当然出していただけるということだと思います。

委員（山口）

ここで、どこでもいいから土地、候補地を出しても無駄な議論のように思えるし。

狩野委員長

そういう意味では本当はもう、こちらもういくつかに絞りたいのですが、絞る候補の枠組みが何かあるとやりやすいのですが。そういう意味では、廃校になった敷地はありうると。それ以外にはいろんな提案があれば検討させてもらうことですね。あるいは、何かまだありますか。

事務局（村づくり推進課長）

廃校になった学校については、実際、円から外れるということで設置は厳しいと思われます。今現在使っている九戸小学校は確かに中心でございますが、その敷地に建てるとなると生徒もいることから、九戸小学校の敷地のグラウンドに校舎を建てて、古い校舎を壊すとなると、その何年かの作業中、子供たちにある程度負担を強いることになりますので、なかなかある敷地にはこの円の中で厳しいところもあります。

狩野委員長

意見をお願いします。

委員（上村）

話は、何年か前に戻ったり、進んだりしていると思いますので、私の今置かれている立場、委員として、この整備に関する指針、4年の9月に発行しているのは、統合再編案の中で令和11年を目途に学園として、小中一貫校また義務教育学校に再編していくのだということは、議会でも承認していると思うし、全村民が共有していることだと私は認識しております。それを受けて、この間、8月に我々が村長からそれに向けた形として、適当な候補地を選定するため委員の委嘱を受けているということはそれに向かって我々は議論しなければならない。前を見て私は議論していかなければならないなという思いです。

狩野委員長

そうですね、議論の間ではあるのですが、ゴールが11年と決まっているし、この答申も12月20日が期限であります。1つに絞らなくても、少なくとも、幾つかあってその条件を出して、最終的には、この中からこういう条件を考えて決めてくださいということですね。

委員（上村）

要は1ヶ月前に、それを承知で我々は委員を受けているわけですね。

狩野委員長

そうですね。もちろん1つに絞られればいいのですが、今日だけでも、複数の意見がありますから、まず、複数出しておいて、その○△×みたいなものを整理していったら絞っていけばいいと思います。あと、どうでしょうか。

委員（吉田）

小中一貫が6、3制によって、このグラウンド設置と違って基準はあるのか。それによって小学校分のグラウンドが必要、中学校分のグラウンドが必要となると、それなりの広さを

考えなきゃならないと思いますが。

事務局（教育委員会 主幹）

そこは時間をください。質問をいただいたので、補足として、この普代村の規模感ですけれども、おおよそにするとこの九戸村の人口の半分くらい、そして、当然、生徒さんも半分の人数でございます。なので、クラスが令和 11 年、12 年あたりを考えると、九戸村としても各学年 1 クラスということが想定されるので、普代村さんと同じようなクラス数ではあるかとは思いますが。ただ、人数的には普代村さんよりかは多くなるのかなと想定しています。

委員（吉田）

はい、わかりました。

狩野委員長

もしかすると、大体同じくらい、全児童数、生徒数は減るけど、クラスとしては大体これくらいで、1 クラスの人数は違うけれど、必要なクラスは大体同じくらい。規模感としては参考になると思います。

事務局（教育委員会 主幹）

グラウンドとかをニーズによって大きくするなど、できる限り広く作ってあげたいと考えています

狩野委員長

はい、お願いします。

委員（中野）

こ過去の話になるのですけれども、前に関わらせてもらったとき、小中一貫校の視察に、秋田県大仙市のすごく立派できれいな学校にいきました。その時にグラウンドが小学校、中学校が一緒に使うグラウンドになっている。特別教室、音楽室も一緒に使うということで、先生たちのやり取りがすごく大変だと思います。なので、1 つでもいいところもあれば、やはり 2 つ、これはどうしても小学校、中学校分けなきゃならない。グラウンドは中学校が使っているても小学校も普通に使えるグラウンドがあったほうがいいと思います。狭いグラウンドだったとしても、資料を見れば 2 つグラウンドがありますが、あとあと狭かったなと考えるのであれば、やっぱり広く確保してあげた方がいいと思っています。

狩野委員長

そうですね。広さを必ず確保しましょうということだと思います。あと意見ございますか。

また、委員会は1ヶ月後ぐらいになりますけれど、その間に、それぞれPTAとか各団体等でいろんな意見があったらば、事務局にいただければいいと思います。今日言えるところは全部お話していただきたいです。

建築の規模感として、3階建てくらいはもう当たり前になってしまうのでしょうか。なんとなく、せいぜい2階建てくらいに収まらないのかなとか、それはこの後の話ですね。

委員（吉田）

実際、その人数が減ってきているのでコンパクトにした方がいいのは確かだと思います。

狩野委員長

実は、滝沢の小学校の統廃合だとかにも関わらせていただいたのですが、2階建てで新しく小学校を作りましたが、そのときもできれば平屋にしたいというのがあったのですけども。

委員（下斗米）

子供たちの数を見たら木造2階建てで十分かなと思います。それと、子供たちの人数が減っていくのですけども、この令和11年が目途ということなのですが、令和11年のときに中学校が4クラスなのですよ。ただ、令和12年からもう3クラスになって、それ以降もずっと子供の数は3クラス、教室が空いていきますから、令和11年が目途というのですが、私の案で行くと用地の交渉もありますので1年ずらして令和12年を目途にした、そういった計画でいいのではないかなと思います。

狩野委員長

そうですね、1クラス減ることがわかっているので、それも1つの、前回の私の解釈は11年であると1クラス多い規模がつくれるので、それもメリットになると思うし、メリットとデメリットって裏腹の部分がありますので、それを全部記載するようにしていきたいと思います。

委員（松本）

建設費の方が大体32億円くらいというのが、普代村でお話あったと思うのですが、九戸中学校の場合は今の既存のものも壊さなければいけない。解体費も出てくる。解体費と用地買収を比べれば多分解体費の方が上回ると思います。その辺も考えていった方がいいのかなと思います。

狩野委員長

はい、ありがとうございます。あといかがでしょうか。事務局の方をお願いしたいのが、

議事録じゃないけど、一応概要みたいなものが、今日いろんな意見が出てきたので、ちょっとそれを整理してくれたらいいのをお願いしたいです。

事務局（村づくり推進課長）

はい。いろいろ出た意見をまとめて次にはお示ししたいと思います。

狩野委員長

そうですね。あと期間が限られている、一番いいのは次回の会議の前に、案でいいのでこういう話が出たっていうのを送っていただくといいのかなという気もします。ちょっと重要な意見がいっぱい出てきているので。

事務局（村づくり推進課長）

はい、わかりました。

狩野委員長

あといかがでしょうか。はい、お願いします。

委員（小沼）

今までの話を聞いていると、現在の九戸中学校の敷地が簡単に候補地として選ぶのなら敷地の面積的には九戸中学校が妥当かなと思うのですが、他の小学校とかを利用する場合には、その周りの土地を買収しないと必要な面積は確保できないということですか。そのときになんですけど、もし、他の土地を買収する場合にどれだけの費用、時間がかかるのでしょうか。いくら案としてこっちが土地を買収したいと言っても、売ってくれないことには、手に入らないことには建設できないのでその辺を考えればどうなのでしょう。

狩野委員長

そうですね。これ、かなり難しい気がしますけど、大体、目途みたいなのはありますか。

事務局（村づくり推進課長）

特に問題のない土地であり、所有者も売りたいという意向であれば、話はまとまると思います。ただ、相続が終わっていない物件あったり、あるいは、所有者が不明であったりすると、その対応に時間がかかるということになります。また、例えば、2 町歩を買う際も、1 筆、2 筆売らないという方も出たりすると、そこだけ高く買うというのはもちろんできませんので、一律の値段で買うということになります。

委員（小沼）

やはり行政の方にも一応予算はありますよね。いくら買うといっても。

事務局（村づくり推進課長）

値段の決め方については村で固定資産税等から試算します。それにお互いが合意しないと売買は成立いたしません。様々なケースによって、時間がかわってきます。結構、相続登記等やっていない物件もありますので、その辺は、もし選定した後に調べることになると思います。

委員（小沼）

そうすると、かなり候補地が少ないというか、もう1ヶ所しかなくなってしまう。現時点では。現時点で土地をピックアップするとしたら、1ヶ所しかなくなってくるような感じだと思えるのですけど。

委員（山口）

土地を取得するのは、実際は5年、10年かかるものだ。

委員（小沼）

ですね。

委員（中野）

伊保内の後ろの土地に決まったとしても、買収して決まったとしても、結局はこの九戸小学校、これは絶対壊さないといけない場所ですよ。伊保内の町に廃校を残しておくわけにはいかないですよ。となれば、そっちにもお金がかかるということです。

事務局（村づくり推進課長）

伊保内小学校がもし空くということになると、逆に位置的にはすごくいい場所ですので、例えばもう更地にしてフェンスを沿って駐車場にするとか、今後図書館を整備したい、公民館を整備したいというときには、一番の候補地になると思います。

委員（川畑）

金にかかるけど、予算はまた別ということですよ。

事務局（村づくり推進課長）

学校とはまた別です。

委員（下斗米）

さっき相続とか、所有者不明の土地の話が出たのですが、私はそっちの方の仕事をしているのですが、今はそんなにかからないです。あとは、所有者不明の土地なんかについても、今かなりの法整備がされているので、東日本大震災のときにそういった問題があつて法整備がされて、かなり早くやれるような仕組みができています。ですから、あんまり、土地の取得で困るようなことは、今はないと私は思っています。

狩野委員長

そうですね。今、ご意見がありました。それも少し目途が立つような何かが、情報が入ってくればいいのかと思いますけど、まず、今は良い悪いじゃなくてとにかく個々であるものをあげるだけあげて、状況を少しずつ考えながら絞っていければと思うので。

あと、いかがでしょうかね。事務局の方で特に案があるわけではないですよ。

事務局（村づくり推進課長）

皆さんのご意見をまとめていただければと思います。

狩野委員長

ただ、この円の中あたりにあったほうがいいというくらいは基本的に明確にします。

事務局（村づくり推進課長）

まず先ほどお話ありましたが、文科省は乗車時間を1時間とっているのですが、低学年が1時間乗らないようにというのは配慮したいと思います。

委員（中野）

スクールバスは何台使っているのか。

事務局（教育委員会 主幹）

今は、小学校だけだと5台、中学校用に3台、それはでもかぶっているんで、全体で5台です。

委員（中野）

これ、前に行ったところは8台使っていましたよね。

事務局（村づくり推進課長）

8台。あと、タクシーも使っていました。

狩野委員長

はい、ありがとうございます。今日、決めることはあまり考えないで、条件をどんどん言っていて、それを記録してもらってまた返してもらって、だんだん、1つに絞るのは難しいかなと、1つに絞ればいいのですけども、当面は2つか3つくらいで、最終的には1つが目標ですけど、難しければ2つか3つで。

委員（川畑）

1つに絞って、こういう条件でだめですと蹴られればそもそも意味がないですね。

狩野委員長

そうですね。だから、2つか3つくらい用意する形で、いいところ悪いところ、問題点とかそれを整理しておいて、優先順位がもしできればその中で1・2・3みたいなをつくる、できなかったら、こちらの意見はこういう議論になって以下の3つにしました、その答申の仕方は尊重していただけたと思いますので、あえて1つに絞ることを目標にしなくてもいいかなと思っています。

前回、うまくいかなかった点があると聞いていますので、予算とかいろんなことで否定されてしまうのもなんか虚しいので、それであれば複数、何とか列記できればいいと思います。この辺りというのを言っていただけるといいのかなと思います。

委員（川畑）

面積っていうのであれば、航空写真とかの方がいいと思います。

狩野委員長

そうすると、事務局の方でいくつか、きっと、廃校になる予定の学校の周辺、それと今日出てきたやつは航空写真みたいなものはありますけれども。

事務局（村づくり推進課長）

候補地としてあげられるのであれば、はい。

狩野委員長

まず、候補になるためのその候補の候補ですね、この辺、この辺というのが今あればどんどん言ってほしいです。

事務局（村づくり推進課長）

もし、この辺というのがあれば、今のお話を伺っていると、大体、伊保内町裏、それから九戸中学校あたりかなというところですけども。

委員（吉田）

それしかないと思います。

委員（中野）

戸田に持っていくとなると、それもまた大変になる。

狩野委員長

ちょっともう2つくらいに絞られているのですね。

事務局（村づくり推進課長）

なお、敷地についても面積をある程度上下したとしても、そこは建て方の工夫であったり、ただ土地があるところに建てるのであれば駐車場であったり、グラウンドなどは小さい子供と中学校が一緒に遊ぶというのはリスクもあるということでそれぞれに分けたいという発想であったり、校舎についても、実際、低学年1年生と中学校の上がる階段の高さというのも実は違って、施設一体型なのですけれども、ある程度小学校エリア、中学校エリアにわけた形に整備はすることになると思います。今までは小学校6年だったのを9年までということなの子供たちの体のサイズ等も違いますので、その辺は配慮した設計をしなければならないようなのですが、それは決まってから教育委員会の方で検討します。

委員（吉田）

ちなみに中学校と一緒にすることで部活用のグラウンドとか、今、地域移行が進んでいますが、それでも部活用のグラウンドは必要ですよ。野球場、テニスコート、バスケ、バレーは体育館だからですが、武道館をどうするかとか、そっちの方まで考えなきゃならないですよ。

事務局（教育委員会 主幹）

今ある部活動が活動するくらいやっぱ確保が必要だと思うので、その武道館も教育課程というかね、武道をやるやらないとかのもあるかと思うので、そこに関しては検討だと思います。すいません。

委員（七戸）

小学校のバレーとか野球って今どこで練習しているのですか。

委員（吉田）

それは今、廃校になったところを回してうまく使っているんで、野球は1つだからもう伊保内小学校だし、バスケが基本九戸小学校を使って、バレーは戸田小学校、中学校は、テニ

スは山根の体育館を使ったりしているので、今は上手く利用できているので、廃校になったところの体育館はとても利用価値があるので体育館はあったほうがいいです。

委員（中野）

九戸村のいいところは、今使っていない小学校のグラウンドとか体育館があるので、建設が決まった時に、グラウンドや体育館が利用できないときなど少しの期間期間、2年とかであれば、少し不便なのだけれども、卓球は別でやっていただくとか、野球は狭いけれども伊保内小学校のグラウンド使っていただくとか、分けることができるのがいいところだと思います。

そういった分、二戸の福岡中学校が建つときにはすごく不便だったと思います。場所がなくて、堀野を利用していました。

建てる時には不便になるのはもう高校だろうが中学校だろうが当たり前のことなのでそれはつきものだと思ってやらなきゃならない。

九戸の場合は分かれて体育館を利用できることがいいところなのかなと思います。

狩野委員長

いかがでしょうか。あと具体的な敷地の話じゃなくてもこういうことは必ず入れてくれたいのがあれば、お願いしたいと思うのですけれども。

委員（小沼）

あげるとしたら、駐車場。保護者用の駐車場はかなりスペースがないと、九戸村の場合、ほとんど皆さんが車で集まるという状況なので、駐車場の確保ができる場所、あと今、九戸小学校、スクールバスでいろいろ送り迎えしますけども、あその玄関に直接つきますよね。

事務局（教育委員会 主幹）

今は玄関まではいかないようにしています。ロータリーの場所に止めて歩く形で、横付けではないです。

委員（小沼）

私も会議とかで玄関まで車を止めたので、一般のお客さんが玄関前に止めますよね。そのときにスクールバスで学校から帰るみたいなことがあったのですが、そうすると一般客が車に乗って動く、そこへスクールバスも来る、それで小学生が歩いてバスに乗ろうとする。もう本当にぐちゃぐちゃになっていて、ここは一般の車も入っていいのかなとか。

委員（吉田）

1回学校側からの通知としてお願いしています。バスに乗る、帰る時間帯に一般車両は入

らないようにとは通知はしているのですが、それを全村民に通知できるかっていえばできていないわけですね。

委員（小沼）

もしできれば、小学生が歩くスクールバスに乗る場所と、一般客が停める場所、職員とかが、駐車場ですというのは別のような場所にした方が交通安全上はいいのかなと思うのですね。

狩野委員長

多分、敷地だけじゃない意見がいっぱい出てきて、それはそれでこの委員会の意見として関係部署にちゃんと報告していただくのは1つでございます。それはぜひ、敷地検討のときに議論した項目は、共有した方がいいと思いますので、それもどんどん言っていただいた方がいいと思います。やっぱりその車と歩者の動線については、小学生の低学年さんがいると、安全問題になるので大変難しいです。あと、どうでしょうか。はい、お願いします。

委員（松本）

今度の建てる小中学校は、避難場所としても機能できるようにするのですか。

狩野委員長

それは確認、多分教育じゃなくて、村づくりなのかな。避難所機能は。

事務局（村づくり推進課長）

総務課ですけども、建てる際には、どこに建てるかもありますけれども、避難指定になるとしますので、防災設備は必要ということで検討させていただきます。

狩野委員長

どうでしょうか。そうしましたら、今日は意見がいっぱい出てきて、事務局で多分まとめるのが大変だと思いますけども、お願いしたいと思います。1週間前でもいいので、もしよかったら、事前に確認の意味で、送っていただけるといいのかなと思います。

では、一応今日の分の候補地の抽出については、意見という形で出していただきました。あとその他というのは、事務局の方で何かあるのでしょうか。

（事務局から次回日程について説明）

【閉会】

事務局（村づくり推進課長）

それでは、次期日程は決まり次第早めに連絡をさせていただきます。それでは、その他はよろしいでしょうか。長時間にわたり協議いただきましてありがとうございます。以上をもちまして、第2回の委員会を終了させていただきます。お疲れ様でした。